

# 大雨に伴う農作物等の管理対策について

令和 8 年 9 月 4 日  
福井県農業総合指導推進会議

## 1 共通事項

### 【用排水等の見回り注意】

- ・大雨の中で圃場の見回り等を行うと、河川や農業用水路への転落などの危険があるため、雨がおさまるまで控えること。
- ・雨がおさまった後でも、増水した水路等の危険な場所には近づかない。
- ・降雨により、圃場の畦畔や法面、作業道や路肩も崩壊しやすくなるため、十分注意すること。

### 【作業の安全を確保】

- ・作業中は熱中症対策に留意すること。
- ・防除作業にあたっては、農薬使用基準に従って実施すること。
- ・出荷中の農作物について、計画的な収穫・出荷に努め、選別を徹底すること。

## 2 水稻

- ・倒伏・冠水した場合、品質低下を防止するため、排水口の詰まり等を確認し、一刻も早く排水する。
- ・必要に応じ関係機関と連携し、水路や用排水設備の点検や機能復旧に努める。
- ・収穫中もしくは収穫直前の圃場は、穂発芽や胴割れ等による品質低下を避けるため、籾水分を定期的に測定し、適期に収穫する。
- ・冠水した圃場は未冠水圃場と区分して、収穫等の管理を行う。

## 3 大豆・ソバ

- ・浸水・冠水した圃場では、排水路等の水が引き次第、できるだけ早く圃場の排水に努める。具体的な対策は以下のとおり。
  - 1) 暗渠排水があれば暗渠栓を開ける。
  - 2) 部分的に水が停滞している場所があれば、溝を掘って排出する。
  - 3) 枕地培土が水をせき止めている場合は水がたまっている部分を切り通す。
- ・冠水した大豆圃場は、病害の発生が懸念されるため、基幹防除を徹底する。
- ・そばの9月中旬以降の播種は収量が見込めないため、再播種については慎重に判断する。（収量が見込めない要因：主茎長が短くなり花房数や分枝数が少なくなる。うどんこ病やべと病など病害虫の発生も多くなる。）

## 4 野菜

- ・水田園芸等の圃場内に停滞水がある場合は、根腐れや軟腐病を助長するため、速やかに排水する。
- ・施設野菜で施設内に水が侵入した場合、速やかに排水を行なうとともに、換気を十分に行い、施設内および土壌の乾燥を図る。

- ・ 果菜類では、根傷みによる草勢低下を防ぐため、果数制限、果房の制限、若もぎなどで着果負担を軽減する。  
また、トマト等では今後の強光や高温による芯葉の壊死などの発生を防ぐため遮光などを行う。
- ・ 根傷みや茎葉汚損により草勢低下が懸念される場合は、回復のため液肥を葉面散布する。また、天候が回復してきたら、早めに畦間を中耕して土壌中に酸素を供給し根の回復を図る。
- ・ キャベツやネギ等では、茎葉の汚損により病害の発生が懸念されるため、被害状況を確認し適切な薬剤を散布する。
- ・ マルチを行なっている畦が冠水した場合は、マルチ下の土壌水分が過多となりやすいので、マルチをはぎ取る、または畦肩部分までめくりあげるなどして、畦の乾燥を促す。

## 5 果樹

- ・ 圃場に長時間滞水すると、根が酸欠状態になって根腐れを起こすため、排水ポンプや浅い溝を掘って表面水を園外に流す等、なるべく早く排水を図る。
- ・ 根傷みや葉の汚損により生育停滞や樹勢低下が懸念されるので、状況に応じて着果制限（摘果）する。
- ・ 過湿により根傷みした樹は、高温少雨時に水分ストレスを受けやすくなるため、土壌水分の保持と地温上昇の抑制を目的として、敷きわらや敷き草等のマルチを励行する。

## 6 花き

- ・ 圃場内の停滞水は、根傷みの原因となるので、速やかに排水する。
- ・ 茎葉の汚損により病害の発生が懸念される場合は、適切な薬剤を散布する。
- ・ 停滞水により茎葉が汚れた場合は、圃場の排水に努めるとともに、可能な限り速やかな散水等で汚れを落とす。
- ・ 施設花きについては、野菜に準じて排水、換気および土壌の乾燥等の対策を行う。
- ・ キクの親株圃場では、浸水後の土壌病害の発生に注意し、生育不良株や病徴株は早期に除去するとともに、採穂は健全な親株から行う。

## 7 畜産

- ・ 畜舎に雨が吹き込んだ場合は、風通しを良くし乾燥に努め、消毒も検討する。
- ・ 雨に濡れた飼料や乾草は、速やかに給与するか廃棄する。
- ・ 湿害により生育が遅延した圃場には、状況に応じて追肥を施す。
- ・ 泥水等をかぶった圃場の飼料作物は、調製後に変敗することがあるので、給与の際に十分注意する。
- ・ 衛生環境の悪化により疾病等の発生が懸念されるので、家畜の行動を入念に観察し、異常が認められる場合は、すみやかに獣医師、家畜保健衛生所に連絡する。